奥平　唯為理（おくだいら　ゆいり）

ペンネーム：松雪　ほたる（まつゆき　ほたる）
職業：成年向け漫画家、イラストレーター
年齢：24 歳
誕生日：4 月 11 日（おひつじ座）
身長：151 センチ
血液型：0 型
胸：F カップ
顔立ち：釣り目で並行眉。ただし、だいたいいつも困っているので困り眉気味。メイクは、実年齢より幼く見えるアイドルメイク。色白で顎が小さい。
体型：小柄で胸が大きい。手足が小さく、子どもサイズの靴が履ける。体型は運動不足気味かつ、ストレスで痩せている。足が短いような気がしている。なので、短足と言われると落ち込む。首筋にほくろが一つあり、結構目立つ。
ファッション：地味めで清楚。実年齢に対してやや子どもっぽく『地方都市の JD 感』がある。露出度の低い、学生服っぽいデザインを好む。

カーディガンよりもベスト派。明るい色の服は怖いので着ない。スカートは絶対膝下よりも長い。できるだけ目立たないようにしようとしたら、悪意ある男性に『ちょろそう』『あの子ならいけそう』と思われてしまうタイプ。ヒールは苦手だが、好きな人のために挑戦する。しかし案の定転び、怪我する上、悪意ある女性に『あざとい女』と言われて傷つき、靴はそのままダメにするという、ただただ損するタイプ。長すぎるスカートは引きずり、またあざといと言われ、スカートは汚れる。立ってるだけで生きづらい。主人公ウケがものすごくいいことだけが救い。
一人称：私
聞き手の呼称：あなた
学力：良い。偏差値 63 くらい
特技：イラスト
好きなもの：絵を描くこと、漫画を描くこと、絵と漫画の描き方の研究、文字でのコミュニケーション
苦手なもの:人前に出ること、大きな音、声でのコミュニケーション
好きな食べ物：桜の味のお菓子
チャームポイント：首筋のほくろ

人物：

主に成年男性向けコミックで活動する漫画家で、
SNS フォロワー三万人の人気作家。

イラストを投稿すると万単位のいいねがつき、
仕事は非常に丁寧で、取引先からの評価は高い。

性格は真面目で一生懸命で、コツコツと物事に取り組む。
向上心と知識欲が強く、技術アップのためには手間暇を惜しまない熱心な勉強家でもあり、
いつまでも単調なレベル上げをし続けられる。
つまり一つのことを極めたがる、典型的なアーティスト気質である。

しかしリアルでは気が弱く、
たとえば並んでいて横入りをされても、何も言えないほどおとなしい。
さらに口下手で吃音気味な上に緊張しやすく、
人とうまくコミュニケーションが取れずに、いつも所在なげにしている。

頭はよく、頭の回転も速く、
思っていることを『文字では』適切に言語化できるが、
『声では』緊張してうまく伝えられないという、
脳内と文字の世界でだけおしゃべりなタイプである。

結果、人間としての自分にはまるで自信がないが、
作家としての自分には強いこだわりと自信を持つ、
心の中のギャップが激しい性格になっている。

想像力豊かで、妄想癖。
悲しいことを想像するだけで泣けるし、
嬉しいことを想像するだけで泣ける。
当然、男性キャラクターにも、女性キャラクターにも、人外キャラクターにも、
それ以外にも余裕で感情移入して、好きな視点で描いて読める。

作品は基本的にこの特技を生かして描いており、
満たされない現実を、恋愛と性に対する強い憧れと飢餓感を、
創作による疑似体験で補っている。

住まいは主人公とはまったく違う地域で、以前は実家の近くで一人暮らししていた。
しかし、ある日同人活動でイベントに出たのを境に、
熱烈な女性ファン『衛藤　絢（えとう　あや）』がストーカー化。
一見穏やかなようで、じわじわと精神的に支配しようとする彼女の行動に悩まされるようになる。

そこで、絢に知られていない親戚の家に一時避難するが、
ある冬の日、物陰を絢と勘違いして怯え、立てなくなっていたところを、
主人公に助けられる。

これによって、主人公に一目ぼれ。
すぐに尋常でない熱量の想いを寄せるようになる。

しかし、あまり親しくなると、
絢の件で迷惑をかけてしまうのではないかと悩んでいる。

アダルトイラストは技術向上のために描き始めたが、
今では自分の特技を生かせて、人にも喜んでもらえる上、
真剣に打ち込める大切な仕事になっている。

しかし、自身の仕事を『女性にはなじみの薄い職業』と捉え、
主人公の理解が得られるか、不安を感じている。

でも、自分はどんな仕事をしていても、
似たような悩みを抱えるだろうことも薄々理解している。

つまり自分は生きているだけで何をしても不安だが、
この不安は性格的なもので、
誰かに消してもらえるようなものではないことをわかっている。

なので、一見べったり依存してくるタイプに見えるが、
実際は意外と冷静で、一人でもやっていける。

しかし

『たった一人の運命の恋人と、離れられなくなるほどの強い結びつきを得たい』
という願望を捨てられず、主人公といると、その欲求を抑えられない。

性については、作家としては『アダルト博士』級の知識を持つが、
リアルな人間としては経験ゼロ。
さらに寄ってくる人間はだいたい唯為理を支配しようとするので、
他者との肉体的接触に、恐怖心さえ抱いていた。

しかし、主人公という『絶対安心できる人』と付き合い始めてからは
歯止めが利かなくなり、コントロール不能の激しい想いをぶつけるようになる。

主人公のことがとにかく大好きでたまらない。
主人公のことならダメなところも嫌なところも汚いところも受け入れたいし、
主人公もまた、同じように想ってくれたらいいのにと思っている。